

文教大学生の生活と意識——留学生との比較

Students' Lives and their Opinions

— Comparison between the Japanese students and the foreign students —

中西尚道

Naomichi Nakanishi

文教大学では、平成6年度に、越谷・湘南の両キャンパスの学生を対象として、学生意識調査を実施し、その結果は『平成6年度文教大学学生意識調査報告書』として発表されている。この度、全学の留学生を対象としたアンケート調査が実施され、調査結果の一部が報告されたので、両者を比較して、留学生の生活と意識の特徴を明らかにするとともに留学生と比べた場合の文教大生の生活と意識について考えてみることにしたい。

1. 生活費

文教大生のうち自宅通学者の生活は、留学生の場合と異なっている面が多いので、文教大生のうち、アパートなどで親元から離れて生活している自宅外通学者の生活費を、留学生の場合と比べてみることにする。なお、文教大生の生活費に関する調査データは、3年生を対象とする調査の結果である。

生活費全体については、文教大生の場合と留学生の場合とで調べ方に違いがあるため、直接の比較はできないが、自宅外通学の文教大生の生活費が平均18.7万円であるのに対して、留学生の生活費の総額は平均10万円程度である。留学生では生活費の総額についての回答がなかった者がかなりいることを考慮しても、日本人学生に比べて留学生の生活費が低い水準にあることが分かる。

住居費については、文教大生の場合は「光熱費を含む住居費」としているのに対して、留学生の場合は「家賃」としている点で、多少の違いはあるものの、自宅外通学者の文教大生の住居費の平均が6.8万円に対して、留学生の住居費の平均はおよそ4万円である。このような住居費の差からみると、居住条件の比較的良好なアパートに生活している日本人学生に対して、多くの留学生の居住条件は必ずしも十分ではないことが伺われる。

食費については、自宅外通学の文教大生の「外食・自炊等の経費」が平均4.8万円であるのに対して、留学生の「食費」の平均はおよそ3.7万円で、ここにもある程度の格差がみられる。

2. 授業の実態と満足度

文教大生の3年生の調査結果から、今受けている授業の満足度についてみると、「大部分の授

業に満足」4%、「満足できない授業が少しある」34%、「満足と不満が半々」41%、「満足できない授業の方が多い」17%、「大半の授業に不満」4%となっている。つまり、十分に満足している学生や非常に不満のある学生は少なく、大部分の学生は、満足している授業もある反面、不満を感じている授業もあることになる。

このことは、留学生アンケートにも同様の結果がみられる。しかし、授業に満足しているかどうかの基準となるものが、留学生の場合と、文教大生の場合とでは違っているように思われる。文教大生の授業に対する不満としては、「意欲をかりたてる授業が少ないこと」、「一方的な講義が多いこと」、「知識の切り売りの授業が多いこと」などを上げる者が多いのに対して、留学生の場合には、「実践的に身につけられるものがほしい」とか「社会人としての知識を教えてほしい」というような回答が寄せられている。

留学生には、はっきりとした目的を持って大学での勉学を目指している態度が比較的はっきりしているのに対して、日本人学生の場合は、学生が興味をもって授業を受けられるような状況を作ってほしいという態度が伺われる。日本人学生の気持の中には、一種の甘えのようなものが感じられる。このことは、大学の先生に対して「わかり易い授業をしてほしい」や「学ぶことの喜びや楽しさを教えてほしい」ということを期待していることの中にも表れている。

一方、留学生からは、日本人学生の問題提起の意識の低さと学生から先生への質問の少ないことが指摘されている。このような勉学態度の違いは、授業中の私語にも現れているといえることができる。個人的な経験であるが、かつて数名の留学生が常に最前列で熱心に講義を聞いていたのに対して、自分に興味のない問題になると私語を始める学生のいたことがある。留学生たちの積極的な勉学態度と問題意識の持ち方を、日本人学生も学びとって、大学の活性化の方向に進んでほしいものである。

3. 友人関係

文教大生の調査結果の中で、最も自慢できるものの一つが友人である。新入生を対象とした調査で、入学した時の期待を尋ねた結果では、「専門の勉強ができること」(77%)に次いで、「友達と仲よくできること」(45%)を上げる者が多かったが、3年生を対象とした調査では、「何かにつけて相談できる友人がいる」と答えた学生が87%に達している。文教大生は、大学の授業についてはある程度不満はあっても、友人については満足している学生が圧倒的に多く、入学時の期待のうちの「友達と仲よくできること」に関しては十分に達成されているといえることができる。

しかし、同じキャンパス内にいる留学生との間には十分な交流が行われているとは言えない。3年生対象の調査の結果をみても、留学生とは「ほとんど交流していない」68%、「たまたま交流する程度」15%で、比較的良好に交流している者は非常に少ない。留学生と日本人学生との友人関係は、教室内でのある程度の交流はあるものの、「何かにつけて相談できる友人」と言えるまでになっている人は少ないと思われる。留学生アンケートの結果に表れているように、留学生と日本人学生との間に年齢差が多少はあるが、「日本人学生は国際観が足りない」あるいは「日本人は内向的で意思疎通がしにくい」といったようなことが交流を妨げる壁になっているように思われる。

個人的に、日本人学生と話し合ったところでも、留学生ともっとつき合いたいという学生は非

常に多い。しかし、自分から積極的に近づこうとする学生はほとんどいないのが実情である。日本人学生の場合は、授業に対する態度として、意欲をかりたてる授業をしてほしいなどという他力本願の気持があるように、留学生とのつき合いについても、何かお膳立てをしてほしいという気持があるように見受けられる。すでに一部の積極的な学生たちによって、日本人学生と留学生との交流が行われているので、そのような輪が少しずつでも広がってゆくことを期待したい。

4. 大学への要望

文教大生の3年生対象調査で、大学への要望として多くの学生が上げたものは「食堂や福利・厚生施設の充実」(60%)、「教室・図書館などの施設の充実」(49%)、「就職対策の充実」(47%)である。なお、この調査では、通学用バスの利用上の問題は回答項目に含まれていない。留学生アンケートでも、大学への要望としては、通学用バスの運行の改善、食堂・売店の充実、図書館の整備などが上げられ、日本人学生の要望に共通するものが多い。更に、留学生特有の問題として、保証人に関すること、日常生活の援助、国際電話の便宜などが上げられている。大学への要望とされるものの中には、大学として早急に対処すべきものもあるが、学生自身の努力あるいは学生たちの協力によって解決することが望ましいものもかなりあるように思われる。

たとえば、通学用バスについては、授業開始時間直前に到着するバスは超満員になることが多いが、そのような時間を外せば、空席の十分にあるバスを利用することができる。また、中国語に対する社会のニーズの高まりとともに、日本人学生の中国語に対する関心が高まっているので、留学生との交流を通じて中国語を学習することなどを積極的に行うようになれば、そのような学生たちのサークルを通じて、留学生の日常生活の援助などに改善の方策を見出すことができるのではないかとと思われる。

【おわりに】

今回、文教大生の調査結果と、留学生アンケートの結果を併せてみたところ、留学生の実態を改めて理解するとともに、留学生と比較することによって文教大生の姿をいっそう浮彫りにすることができたと思われる。

アジアの留学生たちは、ごく一部の者を除き、あまり恵まれていない状況の中で、一生懸命勉学に励んでいる。しかも、苦しいことを表に現すことをせず、明るく学生生活を送っているように見える。それに対して、日本人学生には、何か役に立つことを教えてほしいという受け身の態度、自分の興味のあることには関心を示すが、それ以上の努力はあまりしようとしめない態度などが多く見られる。食堂やバスに対する不満はあっても、全体としてキャンパスの雰囲気は平和で過ごし易いと思っている学生が多いからである。

しかし、文教大生には、潜在的な可能性を持った者が多く、何かきっかけがあれば行動を起こす学生が少なくないと思われる。大学の組織ならびに各教員の指導と、留学生の日常の行動の影響などが、文教大生の意識を目覚めさせ、積極的な行動をするようになることを切に期待したい。

[1996.6.25]

(情報学部教授)